

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570102899		
法人名	有限会社 ライフサービス宮崎		
事業所名	グループホームだんらん		
所在地	宮崎県宮崎市大島町国草136-3		
自己評価作成日	平成 23 年 2 月 9 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou.kokuhoren-miyazaki.or.jp/kaiqosip/infomationPublic.do?JCD=4570102899&amp;SCD=320">http://kouhyou.kokuhoren-miyazaki.or.jp/kaiqosip/infomationPublic.do?JCD=4570102899&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局		
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101		
訪問調査日	平成 23 年 2 月 25 日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○「素顔の自分」で暮らせる場所にしたい。  
 ○可能な限り、自分で箸を持ち、食事を楽しむことができるようにしている。  
 ○不要な薬を減らし、副作用の減少や症状の緩和を目指している。  
 ◎施設内はとても明るく広々として、笑いの絶えないホームである。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、玄関及びロビー、居間、食堂など広い空間が確保されており開放的な雰囲気になっている。前回の外部評価を活かして「気づき」をまとめ、目標を立てて実際に改善に向け積極的に取り組んでいる。入居者も職員も明るく元気で、ホームでの生活が自由な雰囲気の中で営まれている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員に理念の意識付けができるよう、ケアプランを通し支援に取り組んでいる。職員会議や申し送りにおいて、随時、理念の確認をしている。	開設当初からの理念で「人としての尊厳を大切にし、家庭的な雰囲気、個性を活かして日常生活の支援」のもとに三つの具体的な支援が示されている。管理者は職員に適時、語りかけて理念の徹底を図っている。	これまでの地域とのかかわりの実践をふまえて、地域密着型サービスの意義を確認し、理念に付け加えてはどうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、回覧板を通し、地域活動にも参加できるように努めている。散歩に出ると、気軽に挨拶や会話を交わしている。	夏はラジオ体操に参加するなど地域と積極的に関わっている。ボランティアの受け入れもすっかり定着し、双方にとって有益な交流関係が築かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2年前から、毎月1回ボランティアで地域のコーラスグループに来ていただいている。認知症の理解も深まり、「利用者にパワーをもらっている」と喜んでいただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、現況報告をしている。時には利用者とのふれあいの場を設け、認知症を理解していただくよう努めている。参加者の意見は傾聴し、サービス向上に活かしている。	参加メンバーの方の要望があり、現在は3か月に1回の割合で開かれている。委員の意見も出るようになって双方向的な会議になっている。	開催頻度が2か月に1回定期的な開催になり、運営推進会議がさらに充実するよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて連携を取り、共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	質問等がある時には電話で、提出物などは出向いて担当者と連絡を取り、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全と拘束の狭間で悩みながらも、知恵を出し合い工夫をして、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	個人の意思を尊重し、玄関の施錠をすることなく個々の要求に対応している。見守りや対応を工夫して安全面に配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員会議等で、過去の虐待の事例を把握し、あるまじき行為であることを重々伝えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を活用している利用者があり、その後見人との協働支援により、いろいろと学ぶ機会を得ることができている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時はお話をよく聴くようにしている。不安や疑問点があれば、わかりやすく説明をし理解していただけるよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	顔馴染みの近所の方に、第三者委員として活動していただいている。利用者から直接、苦情や相談を聴いていただき、それらを運営に反映させている。	家族からは気軽によく意見や要望が出されている。職員のエプロン左胸に名札を縫い付けているが、これも家族からの意見を取り入れたものである。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見を言い易い雰囲気作りに努め、個別に話をしたり、申し送りや職員会議で意見交換をしている。良い意見や提案は積極的に取り入れ、職員のやりがいにつながるようにしている。	管理者は、職員への問いかけ方を工夫して、職員の意見を引き出すようにしている。管理者はスタッフの良い点得意な点を引き出し活かしたいとの思いで職員への関心を払っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	朝の申し送りには必ず出席し、職員の介護に対する考えや仕事ぶりなどを観察し、働きやすい環境作りに努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、職員会議を開き意識向上に努めている。外部研修には参加を促し、質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との勉強会には積極的に参加させている。他施設職員と情報交換の機会を持ち、質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	一人ひとりの不安や要望をゆったりと聴き、その思いを職員間で共有し、信頼関係を築けるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場に立ち、その思いや不安をしっかりと聴き、受け止める努力をしている。また、不安や心配事につながらないよう前向きな会話を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の心身状態や家族の意向を踏まえ、最も必要な支援を見極める努力をしている。サービスについては、可能な限り柔軟に対応するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、本人がどのようなことに興味を持ち、なにができるのかを探り、それを活かせるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族関係の理解に努め、双方がよい距離感を保ちながら、より深い関係を築けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	墓参りや親戚宅の訪問をしたり、散歩時に友人宅に寄ったりして、よい関係が続くよう支援している。	電話や外出の支援を行い、馴染みの人や場との関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの性格や関係を把握し、仲間作りに力をいれている。持てる能力をフルに発揮し、認め合い支えあうことで孤立感を払拭できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	外出先で気軽に挨拶をし、情報交換をしている。必要に応じ相談や支援をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中でさりげなく聞いたり、生活の様子を観察し把握するように努めている。日頃から交流のある第三者委員を通じ、個人の思いを聴き支援につなげている。	センター方式を応用した独自の記録用紙を作成し活用している。入居者の過去を知り現状を理解し、思いや意向、行動の意味の把握に努めている。対応やケアをした後の様子はどうだったか、さらなるケアの改善につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・知人・過去の病院、施設関係者から聞き取りをし把握に努めている。本人においては「私の生活史」を使用し全職員が会話の中で聴きとりをする機会を設けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別生活記録・日誌・サービス実施評価票・「私の変遷」(気づきノート)や申し送りにおいて、職員全員が現状を把握し、共有するようにしている。また、色々な場面を設け有する力の発見に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・職員・知人・医療関係者から意見やアイデアを聴いている。本人に適したサービスを模索し、本人と職員の努力によりその効果を感じることができ介護計画の作成を目指している。	本人・家族・関係者の意見やアイデアを聞き、本人本位のわかりやすい具体的な介護計画を作成している。定期的な見直しのほか、状況の変化を見ながら随時、計画の見直しを行なっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各記録紙を基に、職員間で意見交換をし、情報を共有しながら日々のケアやプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化に応じ、その都度家族や関係者と連携をとり、柔軟な支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月1回、コーラスボランティアや第三者委員の訪問を受け交流を深めている。中学生の体験学習を受け入れたり、消防関係者との合同防災訓練を実施し協働で支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診を重視し、連携をとり支援している。必要に応じ家族と受診に同行し、医師との信頼関係の構築を目指している。	現況報告書等を用いて情報を伝え、かかりつけ医の受診支援を行なっている。また、近くの病院からの往診も行なわれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各主治医や看護師に、連絡帳や報告書または電話で相談をし、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、面会や家族との連携を欠かさないようにし、早期退院に向け病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ほとんどの利用者は、そのあり方について方針は共有できている。まだ不十分な利用者に対し、これから話し合いを重ね方針を固めていきたい。	基本的にターミナルケアはしない、できない現状であるという方針のもとに入居時から家族に話している。必要が生じるなら医療機関等を活用することになる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、目につく場所に掲示している。応急手当や初期対応の講習会をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行い、災害を身近に感じるようにしている。地域の方々と合同防災訓練を実施し、救援活動のお願いをしている。	夜間を想定しての火災避難訓練を実施している。火災自動通報装置やスプリンクラー、緊急連絡網が備えられている。	地震、水害等を想定しての訓練も検討してほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の対応においては、性格を把握し十分な声かけやスキンシップができています。集合時における話し方についてはまだ十分な対応に至っていない。	近親感が過ぎて禁句や命令調がたまに出ることがあるが、管理者はその都度注意を促し、改善を図る努力をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に歩み寄り焦らずゆったりと、その思いに耳を傾けるようにしている。「どうしたいのか?」を探りながら、自己決定に繋げるよう働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、無理のない、希望にそった支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は本人の好みを尊重しつつ、新しい色やデザインへの挑戦も薦め、気持ちの切り替えや発見につながるようにしている。誕生会や外出時にお化粧やおしゃれを楽しめるよう支援している。!		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を豊富に使い、下ごしらえや食事、片付けを一緒に楽しんでいる。	スタッフが持参する旬の食材が利用されて変化に富んだ季節感あふれる食事となっている。会話が弾み楽しい食事風景となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに適した食事や水分の摂取ができるよう支援している。体重測定により増減を把握し、健康維持できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	要介助者のケアに時間を要し、自立者のケアの確認が不十分な時がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意の保持を重視している。下着と紙おむつ類を併用し、安易に紙おむつに移行しないよう支援している。夜間PTイレを使用している方も、昼間は施設トイレの使用を促し、自立を維持できるようにしている。	排泄パターンの把握や食べ物の工夫などにより、排泄の自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	活動の機会を多くしている。乳製品や繊維質の多い食材を取り入れ便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日のスケジュールやタイミングに応じ入浴を行っている。入浴剤を使ったり、柚子湯にして入浴を楽しむことができるようにしている。	週に3回入浴の日があるが、設定日以外にも散歩後や受診前など入居者の状況に応じて入浴することができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活リズムや要望を尊重し休息できるように支援している。室温や照明の調節、水分補給等にも配慮し、安眠できる環境を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用や変更を常時確認し、薬を正しく提供するようにしている。症状の緩和を目指し、主治医と連携を取り適切な服薬支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人に適した役割や日課を提供することで、自信を取り戻し、張りの生活ができるよう支援している。レクリエーションや行事を計画し、気分転換をしたり楽しい時間を過ごせるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所の散歩に出たり、希望があれば買い物の支援をしている。家族と一緒にデパートや墓参りに出かけたり、バス遠足や名所旧跡の観光も楽しんでいる。	散歩も含め外出支援がなされている。時には貸し切りバスを利用して遠出することもある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その人の欲しい物や状況に応じ必要なものを、随時買えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に応じ気軽に電話できるようにしている。自ら孫やひ孫に手紙を書き、写真や手作り品のやり取りを楽しんでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々のディスプレイをし、季節感を味わえるようにしている。施設内に花を絶やさないようにし明るく華やかな雰囲気作りを心掛けている。	広い畳の居間でくつろいだり、食堂で思い思いに過ごしている。梅、水仙の花が食堂のテーブルや玄関に活けられ、また壁の飾り付けも季節感を演出している。ほどよい空調の管理がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓は、心身共に落ち着いて食事ができるよう、利用者間の関係を十分考慮し座っていただいている。居間では本人の意思を尊重し、好きな場所で思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に居室を見ていただき、家具の配置を一緒に検討している。馴染みの物や愛着のあるものを置き、家族写真を飾って落ち着ける空間を確保している。	それぞれの入居者の好みや使い慣れたものが持ち込まれて、生活感溢れる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口に表札や目印の装飾品を掲示し、わかりやすいようにしている。浴室、トイレ、洗面所等の共同の場所には標示をし、依頼文や説明文を適所に貼ることで、混乱や失敗が減るように工夫している。		